

2017年度第1四半期決算説明会(2017年7月31日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2017年7月31日)時点の情報に基づく内容です

Q. パワーセグメントの受注進捗が芳しくないようですが、通期の受注見通しが未達成となるリスクはあるのでしょうか？ また、2017年度の大型ガスタービンの受注台数見通しに変更があれば伺いたい。

A. ガスタービン、コンベンショナルともに受注環境は厳しいと感じています。2017年度の見通しについては、案件の後ろ倒れや目下の市況を鑑みると楽観視できない状況にあり、今後も注視していきます。

また、第1四半期に大型ガスタービンを2台受注しましたが、受注進捗としては芳しくないと評価しています。期首計画どおりにしっかり受注を積み重ねていきたいと思っておりますが、競争の激化等を踏まえると、見通し達成には不透明感が残ると考えています。

Q. 南アフリカボイラプロジェクトの第1四半期末時点の状況について伺いたい。第1四半期にボイラを1缶引き渡したという報道がありましたが、これは事実でしょうか？また、残りのボイラの建設状況はいかがでしょうか。

A. MHPS(三菱日立パワーシステムズ)は本プロジェクトにおいて、ボイラ全12缶を手掛けることになっていますが、2017年度第1四半期までに累計2缶の引き渡しを終えており、いずれも商業運転を開始しています。現在、プロジェクト全体の工事進捗としては7割ほどのところまで進んでいます。

Q. MRJの研究開発費について、第1四半期計上額及び前年同期からの増加額はどれくらいでしょうか？また、2017年度の研究開発費見通しは、2016年度から抑制する期首計画に変更はないでしょうか？

A. MRJの研究開発費は2016年度第3、第4四半期にピークとなりました。費用削減の取り組みにより、2017年度第1四半期の研究開発費は、2016年度第4四半期から減少しているものの、2016年度第1四半期と比べると増加しています。MRJの開発は佳境を迎えておりますが、引き続き研究開発費の効率的な使用に努めてまいります。

Q. 2017年度のフリーキャッシュフローの見通し1,000億円を据え置くとのことですが、AREVAへの出資は見通しに織り込まれているのでしょうか？また、AREVAへの出資はいつ頃を予定していますか？

A. AREVA への出資完了は 2017 年度中を予定しています。アセットマネジメントによってノンコア資産を流動化し、コア事業資産としての AREVA 株式へ置き換えます。そうすることで、AREVA への出資に伴うキャッシュアウトをカバーする計画です。

Q. 三菱重工業の業績は季節性があり、四半期で見ると第1四半期が最も低く、下期に向けてキャッシュフローが改善していく傾向にあるという認識でよいのでしょうか？

A. 損益については、当社は下期に利益計上が集中する傾向にあります。

キャッシュフローについては、これまで悪化要因となっていた客船を 2016 年度に引き渡し、2017 年度は逆に客船に関する入金があったことなどを踏まえ、フリーキャッシュフローの年度見通しは達成できると考えています。

以上